

情報処理教育の課題

—大学の場合—

菅原春雄

はじめに

情報処理教育ということばが最近いろいろな方面で用いられているが、ここでは図書館利用教育において用いる。⁽¹⁾40年代から世は情報時代、情報化社会といわれ、情報なることばが各分野で用いられている。情報科学、情報工学、経営情報、情報処理教育などと産業界、教育界でもかなり定着してきた。

学校教育においても学習指導要領に情報を処理する能力の育成など示している。⁽²⁾

大学においては、戦後欧米先進諸国の影響により大きな教育改革が行われ、教育と研究に力が入れられ、それとともに施設の充実においてもめざましいものがある。

このように、その対応にも積極的努力がなされ、オリエンテーション、指定図書制度の試み、最近ではオリエンテーションを拡充した図書館利用指導、利用教育の認識が、学生、教員、図書館相互からとみに高められてきている。例えば全国的規模の学会や研修会で利用指導、利用教育の促進について理論及び実践面で創意工夫と論議を重ねている。

この諸因には学校教育において利用教育が実施されてこなかったことにあるのではないかと思われる。さらに今日の大学教育において、こうした利用教育が必要不可欠な、そして急務な問題として認識されてきたからではないかと想像される。

このような状況のなかで、大学における利用教育の現況そして将来展望について論究してみたい。

I 大学における情報処理教育の現況

大学における利用教育の必要性の強調は、北島、浜田、深川、小林各教授等がすでに口頭で、論文で発表していることは衆知のとおりである。そして最近広く図書館界、教育界でその論議をにぎわしている。

そこで、まず、大学教育の原点から考察してみると、学校教育法第52条⁽³⁾を見ると大学の目的として「大学は

学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」と書いてある。しからば、知識を授かる授業というか、教育が、今日の大学教育において、従来のような教科書中心主義の教育で果してよいだろうか。戦後大学教育あるいはそこにおける教授法が欧米先進国から導入され、単位計算においても講義に対し予習、復習の時間を与え実習、実験、演習においても多くの時間を配分している。また海外留学も盛んになり、外国の教授法を学んできて、それを各教科へ導入し効果をあげている例もある。最近では学習法すなわち学び方に関する出版物が多く見られる。よくアメリカの教育は学生が自分で学習主題を選択し、自分で目標を決めて勉強するという自主的学習方法がとられているといわれている。また教員がある課題を出し、課題図書を指定して、それを読んで、調べてこなければ授業が受けられないというシステムをようだ。このように利用教育は自分自身から調べて授業に望むという必然性から生れてこなければ利用教育も役立たない。

必要あれば自から勉強し図書館資料また利用法も積極的に教わるはずである。熱意ある学生等はすでに学校図書館、公共図書館でその調べ方、学び方を自分なりにマスターしてきている。そこに情報収集力や検索力の差がでてくる。日本の教育は前述のように教科書中心主義で図書館を重要視していなく、利用しなくてもすむ教育が行われているからであり、さらに教育担当者がそのような教育を受けてこなかったなどの理由によるところが多いような気がする。

よってこれからの教育は図書館資料を使つての教育を考え、資料の利用によって課題を出し、図書館を利用する動機づけが必要である。その方向にもって行くのは、やはり大学の教育現場で、学生が自ら求めたい情報を自ら探すことのできる基礎的知識、技術を修得させる義務があり、その担当は教員であるべきと思う。

II 情報処理教育の実施

1 実施試案及び提案

利用教育の実施にあたっては本来学校教育で実施すべきと思う。学校教育においては、すでに学校図書館基準や学習指導要領に例示されているように、図書及び図書館利用指導の必要を定めている。一部には特設時間に、あるいは特別教育活動や学級指導のなかにとり入れ、文部省項目やS L A項目あるいは独自の利用指導カリキュラムで各教科に適應して実施しているケースもあり、学校教育においては徐々ではあるが実施されている。

しかし我々義務教育の中で利用教育を完全実施を望むものにとっては不備である。

担当者の問題（司書教諭が教科担任）や教授内容及び方法の問題などいくつかの諸問題の解決と理解がなければ充実発展しない。

図書館学界では学習指導要領改訂のたびに利用教育の問題を検討しそこへ盛りこむよう再々要望しているが、理解がとぼしいような感じがする。今後このへんの理解と拡充を図らなければならない。

大学において実施するとすれば、いろいろな方法がある。ただ学校教育で行っているような、単なる図書館利用法だけにとどまっていたはいけない。高度な利用法とくに文献探索法の指導が大切ではないか。

高度な利用法とはいっても初歩的な図書館利用法からはじめなければならない。

前述のように学校教育において、その知識が理解されていたか、そのへんの調査検討が実施された段階で、それでは大学教育のなかでどう対処して行くかということになる。

今や大学においてこのような教育が、一般教養、専門科目にとって必須の科目として重要視されていることから、一部の学生のみならず全学生対象にその科目を履修させるべきである。利用教育の目標とすれば、ひとつには知識、情報を探し出す方法であり、そして探し出したものを整理保存すること。さらに知識、情報を伝達するという三つの型にまとめられる。要するに、図書館及び情報（図書館資料）を利用するために必要な基本的な知識で、そのための技術及び態度そういったものを育成することが大学における利用教育といえよう。利用教育は知的生産の技術としてあくまで情報、資料の選択、収集、利用を促すための基礎的知識という範囲で考えるべきである。そこで利用教育の実施についての試案、提案を二、三紹介してみると次のような試みが提唱されている。

○北島 武彦教授試案⁽⁴⁾

情報処理教育 2単位 一般教養1年対象 60時間

内容：1 大学生活と大学図書館

2 大学図書館の利用法

3 基本参考図書の解題と利用法

4 基本的二次資料の解題と利用法

5 専門領域の参考図書及び二次資料の解題と利用法

6 情報・資料の加工・再編成

7 他の図書館・類縁機関・専門情報機関の利用法

○井出 翁教授提案⁽⁵⁾

情報検索法

大学の一般教育科目に情報検索法になる科目を設けることが必要である。

内容：1 図書館全般に関する概括的な知識

2 閲覧目録の使い方

3 レファレンス資料の種類と特徴特に書誌的資料の使い方

4 一般資料の内容構成およびその項目の特徴の把握

○小林 矩子教授提案⁽⁶⁾

教養の図書館学

大学生を対象とする図書館利用指導の必要性を強調し、それは大学の教養課程の全学生を対象とする一般教養科目としての図書館学の開講を提案し「教養の図書館学」を必設したい。そして目的は図書館利用指導にはじまる文献探索技術の指導は義務教育のはじめの段階から、常によき教育環境に過ぎた少数の優れた学習者を対象にして行われる性質のものばかりでなく、大衆化された大学における図書館利用指導及び文献探索法の教育が必要であると述べている。

○J L A文献情報活動委員会結論⁽⁷⁾（現J L A情報管理委員会）昭和37年4月25日

A基本方針

1. この基本方針の前提として、まず大学に入学した全学生を対象に、つぎの方策を考慮する必要がある。

a 大学の教養課程において「一般的資料の利用法」「論文作成法」についての単位を設け、全学生

情報処理教育の課題

の必修とする。

b 大学の各専門学部学科において「**専門的資料の利用法**」および「**報告書の作成法**」についての単位を設け、当該学部学科の学生の必修とする。

2. 一般教養課程においては、できるだけ多くの外国語を履修せしめるとともに、早くから資料の利用法、論文作成法などを必修科目とし、これに習熟せしめること。

2 実施例

1) 慶応大学日吉校舎 浜田敏郎担当⁽⁸⁾

科目：**研究情報処理** 4単位

内容：情報処理とは情報の収集、蓄積、検索伝達の技術である。情報処理の応用範囲は広く、個人のレベルにおいては日常生活においては勿論のこと、学習、研究、調査等の諸活動において必須の基礎的手法であり、社会のレベルにおいては、出版社、研究、調査機関、図書館、情報センター等の諸活動において必須の技術である。授業では個人のレベルの情報処理に重点を置き、情報源の種類と特性、情報の収集法、情報源の利用法、収集した情報の整理法、レポートや論文の作成法等について講義し、一方学生は各自最も関心のあるテーマ（例えば特定の専攻科目、社会問題、趣味、娯楽等）一つを選び講義の流れに従って各自のテーマについての情報処理の演習を行い、その結果を随時レポートし、最後にこれをまとめ報告書として提出する。

参考文献は必要に応じ指定したり、コピーして配布する。

2) 国際キリスト教大学⁽⁹⁾ 長沢雅男担当

科目：**ライブラリー サンエンス** 2単位

内容：選択科目で卒業単位に関係ない。とくに実際に論文をどう書くかを目標にして、そのための書誌の作成を課し、文献探索の方法や書誌的記述の方法など教える。

3) 大阪女学院短大⁽¹⁰⁾ 丸本郁子担当

科目：**研究調査法** 2単位 一般教育科目の選択で1年対象。

内容：1 序論—情報学の必要性—

2 情報の流れ

3 短大学習における調査法—調査の10steps

4 図書館の分類とカードカタログ

5 図書館での主な資料

6 その他の情報機関

7 新しい動き

J L A 刊の図書館学教育担当者名簿昭和52年版⁽¹¹⁾を調べてみると、まず、資格取得に関係ないところの、すなわち、司書または司書教諭の資格に関係ない、単位数に満たない大学を分析してみると、設置目的は国立大学においては教職課程の一部として、また教養として置いてある程度である。私立においてもほぼ同じようなことが言える。科目は図書館学あるいは学校図書館学や文献探索法、教養の図書館学という名称だが統一名称ではない。単位は取得に関係なく選択科目が多いようだ。履修年次においても全般的には一年生対象が多く、履修生は開設当時は少く次第に年毎に多くなっていく傾向にある。

短大においては79年私立短期大学図書館総覧が刊行さ

利用指導あるいは図書館教育を実施している大学の状況

区別	大学名	科目	単位	担当者	備考
国立	東京大学	文献探索法		長沢	教養部
私立	東京学芸大学	図書館学	2	北島	「コミュニケーションと図書館」
	国際キリスト教大学	ライブラリーサンエンス	2	長沢	選択科目(教職)論文作成法
	東京経済大学	海外経済情報	2	小野	専門科目選択
	慶応大学	研究情報処理	4	浜田	日吉校舎
短大	京都産業大学	社会調査と文献の収集処理	4	岩猿・渡辺	
	仙台白百合短大	図書館学	1	宮城	考え方・考える力
	青葉学園短大	文献情報学	2	もり	選択(図書館利用法)
	東洋英和女学院短大	図書館教育	1	芝原	英文前期1年必須
	大阪女学院短大	研究調査法	2	丸本	1年対象一般教育選択

れ²⁾、それを見ると利用教育は低調で主として、入学時のオリエンテーションに主体がおかれ、利用案内(印刷物あるいはAV機材)の説明にとどまっている。

しかし必要性は認識しているようで、現在検討中あるいは将来計画として構想をねっているところもあるようだ。これは図書館側の構想で全学的検討はまだまだ遠い話のようだ。検討として二、三の例をあげると、やはり図書館側でのアイデアで、時期を見て図書館利用の講習会開催したい。ゼミ単位で卒論作成のための文献利用指導を実施したい。

二次資料の使い方について上級生対象に考えたいと積極的姿勢をみせている。

しかし実施にあたっては全学的協力のもとに行わなければならない。

Ⅲ 情報処理教育担当者について

利用指導または利用教育の担当者は、図書館学担当者あるいは教科担当者または図書館専門職員がその任に当るべきである。

図書館学担当者の場合、その大学に設置されている図書館学科目を担当するのが主体であるゆえ、他の科目も担当するとなると問題もかなりある。本来図書館学とは別に全学生を対象に実施すべきで、できれば一般教育担当者のなかで、図書館学の知識がある人が担当すべきであるが、当面はその余裕もないだろう。しかれば、もしその大学に図書館学を設置していれば、当分は図書館学の専門科目と兼務しかないだろう。図書館学担当者が、その理解を示し積極的な参加のもとで、全学的利用教育の導入を図らなければならない。

教科担当者においては、できれば過去図書館学の知識あるいは主題知識についての文献書誌についての知識の修得が望ましい。これについてはある程度各々の専門分野で自らその情報を収集していることは当然と思われるが、図書館側でも各教科担当者に新しい情報を流す必要がある。例えばコンテンツサービス、新着案内などの書誌的サービスを定期的にとるとよいだろう。

そして各教科担当者と図書館側との協力のもとに利用教育をすすめて行くべきである。

図書館界も戦後急速な発展をなし、利用者要求も多種多様高度化され、従って図書館はその機能もそれに対処しなければならない。

よってそこで働く担当者も従来からの司書的イメージから脱却する必要がある。

その図書館員である司書たちも利用指導について直接間接の協力が必要である。

現在徐々ではあるが、入学時におけるオリエンテーションで様々な型で行われているが、あまり効果がないようであるが、回数を重ねることにより効果あるよう工夫と努力が必要である。

以前図書館に関心を持たせるため、授業をより効果的にするため、欧米より導入の指定図書制度のとりいれによって、閉架式閲覧システムから自由接架方式への切換えが積極的に行われ、従来の閉鎖的イメージから開放感になり、利用者たちが自由に資料に接し、資料の選択力も増大し、各種資料の利用も行われるようになってきた。

図書館側もその対応にレファレンス Tool の充実やレファレンスサービスに積極的になり、他館との相互協力や文献複写依頼も年々増大してきている。

そこで大学におけるライブラリアンも高度な知識と技術が要求されるようになり、養成面でも単なる司書養成(公共図書館を主体とした養成)ばかりでなく、館種別あるいは主題別ライブラリアンの養成が要求されるようになってきた。

このような情勢において将来利用教育に対しても積極的な図書館員の参加が要請されよう。すでに大学図書館改善要項にも図書館専門職員が図書館学においても教授できる体勢が示されている。

大学教育において上記の三者の相互な協力のもとにおしすすめていかななければならない。カリキュラムにおいては、一、二の大学における利用教育のカリキュラム試案が出されているが、それらを参考または独自のカリキュラムによって(学部学科により異なるので)あるいは標準的カリキュラムの作成によって効果的な利用教育が実施されることを切望する。

Ⅳ 情報処理教育におけるテキスト

図書館では独自の利用案内として、また利用教育の補助的なものとして小冊子など作られている。一例をあげると

1) 千葉大学附属図書館

図書館で学ぶために

- 1 図書の利用法
- 2 レファレンスブック
- 3 レファレンスの事例65選
- 4 文献目録作成法

5 学外図書館の利用法

2) 国際キリスト教大学図書館¹³⁾

文献探索の手引き A 4 10P

内容：図書館所蔵の基本的書誌解題

3) 大阪経済大学図書館

論文・レポートを書くための文献資料の探し方

—社会科学分野を中心に—79, 4 38P

内容：Ⅰ 図書館を利用した資料の探し方

Ⅱ 検索ツールの紹介

Ⅲ 資料の入手法

4) 東京女子大学短大部図書館

図書館で学ぶために No 2

文献探索の手引 1979 24P

内容：はじめに

第一部 文献の探しかた

第二部 文献の入手のしかた

5) 高知学園短大図書館

図書館利用の手引 2 利用者のための図書館学

—文献探索の手引—79, 4 47P

内容：Ⅰ 文献情報概論

Ⅱ 文献の探索

単行本の探索

雑誌論文の探索

主要書誌の紹介

Ⅲ 文献の入手

Ⅳ 付録

これらは学生のためのガイドブック程度で、将来本格的な利用教育のテキストも必要になってくる。そして作成にあたっては標準的であると同時に、その中で各々の大学の特色あるいは専門学科に即したものであってほしい。標準的なものとしては、小学校用として昭和43年小学校図書館利用指導研究会編の「学習と読書のガイドブック—学校図書館の利用のしかた—」が第1法規から発行されている。¹⁴⁾また高等学校用として、昭和53年東京都高等学校図書館研究会編の「学び方の技術—高校生の図書館利用法—」が日本書院より刊行されている。¹⁵⁾これは昭和40年東京都高等学校図書館研究会が編集した「高等学校の図書館」¹⁶⁾を改編したものである。

大学における利用教育のテキストとしては一般的なものはなく独自の方法で行われている。参考書としては付

にあるなかから適当と思われるが使われている。

最近レファレンス業務と関連して利用教育を自然に結びつかせようと試みた文献がある。それは武蔵野女子大学の小林矩子氏で、昭和53年「図書館における調査と研究」で蒼文社から出ている。書評にもあるように、¹⁷⁾レファレンスの教科書や利用教育の参考書として大いに役立つと評している。また近く刊行予定の「大学生と図書館」（日図研）も大いに参考になるだろう。

V 情報処理教育の今後の課題

現在学校教育において毎回学習指導要領に図書館利用教育の必要性を強調し、教育界、図書館界から要望書を提出し、その改善充実を求めるよう提唱している。

また大学においては徐々ではあるが、その必要性を認識し、自主的に利用教育の方法を検討し、さらには他大学の実施例を見て、自ら必要性を認識し、検討や実施しているところがある。最近一般教育学会の創立で¹⁸⁾一般教育のあり方を検討しており、図書館界もこの方面へ働きかけ、その促進方を早急に検討しなければならない。

図書館利用教育は本来館種を超えた共通の問題としてしんげんに検討しなければならない。そういうわけで日本図書館協会でもようやくその必要性を認識し、総会や全国図書館大会でも共通の理念として考えてほしいといっている。47年全国図書館大会が岐阜で開催された際、J L Aの教育部会で図書館利用教育委員会が発足した。

その設立目的によれば、学校教育における情報、図書館の利用に関する一貫した教育計画の確立を図ろうとしている。具体的計画として、第一に、基礎的調査として文献調査、実態調査などをすすめる。第二として、図書館利用能力表の作成、第三として、利用指導のカリキュラム、指導要領の作成など打ち出している。このような計画のもとに継続研究が行われているが、最近の動きとしては、52,3年学習指導要領の改訂に際して図書館学教育側から発言が必要というわけで、教育部会長から文部省へ要望書を提出している。¹⁹⁾

図書館利用教育が今日の情報処理教育の育成に大切であることを要望し、ぜひ指導要領にもりこんでほしいということである。

現在この委員会も低調であり、再度委員会活動を積極的にもりあげてほしい。それは最近利用教育問題が再燃されている時期でもあるゆえに。

また今日は情報化社会といわれ、氾濫状態にある各分野の情報を整理圧縮し、必要に応じて検索する知識、技

術が日常生活においても必須となってきた。よってそのような知識、技術なくしては主体的な生活に対処して行けなくなる。

したがって文教当局あたりも、すみやかに勇断を持って新時代の教育にそれをもりこむべきである。

おわりに

最近、大学入試に小論文がとり入れられてきたようだが、いままでの受験生は、そのような論文やレポートにも書きなれず、とまどっているようだ。これに目をつけ、出版界では盛んに小論文の書き方、書く技術など若い人に人気があるようだ。なかにはそれを拡大した知的生活の方法、わたしの知的生産の技術など、いわゆる我々の言う利用教育に、学び方の技術に役立つ出版物ははんらんしつつある。これは我々にとってよるこぼしい現象であるが、一因には利用教育あるいは学び方教育に関心が強くなってきたことと、いままでそのような教育を受けてこなかったことにも原因があるような気がする。

これから、学生たちも受ける教育から積極的に教えてもらう方向に転じなければならないと思う。

ある学校でその必要性から「自ら考え、自ら学ぶ力を育てる」と言う学習目標をたて、急速なこの情報化社会の進展に対処できる生徒、学生を育成するためには、知識を教えることより、多くの情報を取捨選択したり、処理する能力を育て、生涯学習する態度や力を培うことを目的としてすすめているという。

これからの学校教育、大学教育は単なる文化遺産の継承や伝達だけでは不十分で、児童生徒あるいは学生に必要な情報を処理し、自己の知識体系を修正していく能力を育てることが大切ではなかろうか。またこの情報化社会を切り抜けて行くためには小さいときからの「情報のしつけ」が必要になってくる。

情報の生産、処理、伝達などの情報の大切さの基礎的訓練を小中学校からみっちりしこんでおく必要がある。

今の教育のなかでこれらの事柄を教えるとしたら、何の科目に入るだろうか。事柄の重大さからして、今の国語、社会などの科目に入れることは無理で、新たな科目「情報科」のような科目を作って総合的、集中的教育が必要であると、10年前岩波新書で、「知的生産の技術」を書いた梅棹氏²⁾が述べている。

今後はそのような科目も必要であるが、当面は学習指導要領に利用指導の必設化を望み、大学教育においては一般教育科目に設けるべきである。さらに教育改革とし

て、これからは教える教育から学び方教育へと転換を図るべきである。²⁾

情報化社会の今日、一生涯にわたって必要な新しい知識、技術を学ぶ必要がある。そしてその教育が、学校、大学教育に限らず拡大されて行かなければならない。まずは学校教育における図書館の利用指導からスタートし、大学においてはとりあえず、教員養成大学やすべての大学、短大の一般教育科目に、名称は別として大学におけるいわゆる資料利用や学び方、知的生産の技術なる科目を置いて必須化し、推進させるべきである。

この方策については将来大学設置基準や短大設置基準改正による施策が必要である。

またそれと同時に今年をはじめ、学術審議会が「今後における学術情報システムの在り方について」²⁾答申し、今後の教育のあり方、図書館の対処や利用者の高度な要求に答えるため、高度な利用教育の必要も問われている。このような科目の導入ばかりでなく、それと同時に受入体勢としての図書館の資料並に設備の整備拡充もあわせて行われなければならない。そうでないと情報処理教育の効果もうすくなってしまふ。

さらに利用教育は従来の図書館学とは異質であるが、内容とすれば図書館学教育のひとつでもある。よって今後の図書館学技術はこのような利用教育を含めたカリキュラムも構築して行かなければならないと思う。²⁾

本稿を終るにあたり東京学芸大学教授北島武彦氏からご校閲を賜わり、ここにあらためて深大なる謝意を表したい。

注

- 1) 天城勲他編 現代教育用語辞典 第一法規 昭和48 P280 参照
また付参考文献にもあるように図書館界では最近この用語が一般化されつつある
- 2) 朝倉 隆太郎 情報処理能力の育成 教育と情報 251 (1979) P2-7
- 3) 学校教育法 法26 昭和22.3.31
- 4) 北島武彦 大学における図書館の利用指導に関する一考察 大学図書館研究 3, 4 (1974) P14-17
- 5) 井出 翁 大学における図書館の利用指導 現代の図書館 16, 3 (1978) P131-139
- 6) 小林矩子 大学生を対象とする図書館利用指導について 同統編 武蔵野女子大学紀要 11, 12 (1976-1977)
- 7) 資料「専門図書館の要求に適合する専門職員またはドキュメンタリストの養成についての文献情報活動委員会結論」昭和37年4月25日 全国図書館大会資料 1962 P11
- 8) 昭和52年度第25回日本図書館学会発表資料 情報処理一情報の収集・保持・伝達一 昭和54年度日本私立短期大学協会図書館実務研修会報告書 基調講演「学生のための図書館利用教育のあり方と司書の役割」 昭和54年 P7-16
- 9) 阪田蓉子 国際基督教大学(ICU)における図書館利

情報処理教育の課題

- 用法指導 図書館雑誌 74, 6, (1980) P264-265
長沢雅男 図書館の利用教育 東京都私立短期大学協会図書館司書実務研修会集録 昭和52 P1-1
- 10) 図書館界 30, 4 P145-146. 丸本郁子 本校の資料利用教育の一面 大阪女学院短期大学紀要 6号 (1976) 丸本郁子 図書館利用教育をしてみると 短期大学図書館研究 1 (1980) P57-62
 - 11) J L A 図書館学教育担当者名簿-昭和52年調査 J L A 1978
 - 12) 私立短期大学図書館総覧1979 同協議会発行
 - 13) 9の阪田論文
 - 14) 小学校図書館利用指導研究会編 学習と読書のガイドブック-学校図書館の利用のしかた- 第1法規 昭和43
 - 15) 東京都高等学校図書館研究会編 学び方の技術-高校生の図書館利用法- 日本書院 昭和53
 - 16) 東京都高等学校図書館研究会編 高等学校の図書館 日本書院 昭和40
 - 17) 渡辺敏一 図書館雑誌74, 4 (1980), P182
 - 18) 一般教育学会昭和54年12月8日発足目的は学会会則第2条によれば「本会は、わが国の大学における一般教育に関する研究活動の正当な発展を期し、研究活動に関する情報交換並びに研究成果の公表、利用、集積及び継承を円滑ならしめ、併せて一般教育の振興を図ることを目的とする」とある。一般教育学会誌 創刊号 1980
 - 19) 学習指導要領における情報利用教育の位置づけについて-要望書提出- J L A 図書館学教育部会会報第5号 昭和52 P12. 昭和53年7月31日 J L A 理事長・図書館利用教育委員会委員長浜田敏郎から「高等学校学習指導要領案について」の要望書を文部省初等中等教育局長諸沢正道殿へ提出
 - 20) 梅棹忠夫 知的生産の技術(岩波新書) 岩波書店 1969
 - 21) 野瀬寛顕 学び方教育のすすめ 小学館 昭和55
 - 22) 今後における学術情報システムの在り方について 教育学術新聞第1122号-1124号 (55.2.27-3.12)
 - 23) 司書教諭および学校司書の資格基準(第1次案 学校図書館速報版第867号 昭和53年9月5日 同第二次案 同速報版第937号 昭和55年8月15日)

付 図書館利用教育研究の動向

I 最近の学会、研修会発表

- 1) 日本図書館学会関係
昭和49年 第22回
○北島武彦, 小山郁子
高等学校における学校図書館の利用指導に関する実証的研究
○深川恒喜, 保坂勇
小学校における図書館利用指導に関する研究-学校図書館の利用指導の授業ならびに児童の図書館利用態度の変容に関する研究-
○山田明彦
情報検索の能力を育てる学校図書館利用指導
昭和50年 第23回
○深川恒喜, 保坂勇
小学校における学校図書館利用指導の授業研究
深川恒喜, 麻野矩子他
大学図書館における利用指導に関する研究
昭和51年 第24回
○小林矩子他
大学生を対象とする図書館利用指導に関する研究
昭和52年 第25回
○小山郁子
小学校社会科教育における図書館利用についての問

題点

- 深川恒喜, 保坂勇
小学校における学校図書館利用指導の教材ならびに授業計画に関する研究
- 浜田敏郎
情報処理教育と図書館活動
- 小林矩子他
日常生活における調査と研究-大学生を対象とした図書館利用指導の研究-
- 岡田靖
大学における学生の図書館利用に関する調査報告
昭和53年 第26回
- 深川恒喜, 保坂勇
小学校における学校図書館利用指導の教材ならびに授業計画に関する研究
- 浜田敏郎
学生の図書館利用の実態とその対策
昭和54年 第27回
- 保坂勇
小学校における学校図書館利用指導の教材ならびに授業計画に関する研究
- 深川恒喜
中学校学級指導における図書館利用指導の研究
- 2) 図書館学教育研究会 第9回
昭和52年テーマ
図書館の利用指導に関する事例発表
発表者: 深川恒喜, 浜田敏郎, 長沢雅男, 丸本郁子
- 3) 日本読書学会 第24回
昭和55年
山田明彦 情報処理性の指導としての学校図書館利用指導
- 4) 短大関係研修会テーマ
○昭和52年東京都私立短期大学協会図書館研究委員会「図書館の利用教育」
○昭和53年日本図書館協会全国図書館大会短大分科会「図書館の利用教育」
○昭和53年日本私立短期大学協会図書館研究委員会「図書館の利用教育」
○昭和54年日本私立短期大学協会図書館研究委員会「図書館利用教育-印刷物による図書館利用教育-」
○昭和55年度図書館研究協議会(東短協)
討議: 短大図書館業務に関する諸問題
寺田 正博 図書館教育について
- 昭和55年度全国図書館大会短大分科会テーマ 80年代の図書館を考える
田中 輝夫 図書館の利用教育

II 文献による図書館利用教育の動向

i) 図書(個人及び集団対象で年代の著者順)

-戦前-

- 1909 (明治42)
戸野周二郎 学校及び教師と図書館 宝文館
1911 (明治44)
佐野友三郎 抄訳師範学校教程図書館管理要項 自費出版
1917 (大正6)
植松 安 教育と図書館 目黒書店
1918 (大正7)
田中 敬 図書館教育 同文館
1920 (大正9)
佐野友三郎 米国図書館事情 金港堂

-戦後-

- 1948 (昭和23)
文部省 学校図書館の手引 文部省

- 1949 (昭和24)
東京学芸大学東京第一師範附属小学校 小学校の図書館教育 学芸図書
- 1950 (昭和25)
天理学園学校図書館研究会 小学校から大学まで図書館科の研究 養徳社
- 1951 (昭和26)
図書館教育研究会 図書館教育 学芸図書
- 1953 (昭和28)
山下 栄他 図書館の利用法 京都出版
- 1954 (昭和29)
全国学校図書館協議会 学校図書館教育 明治図書
辞書事典の利用 明治図書
- 1957 (昭和32)
初等教育指導事例集 8 学校図書館編 明治図書
- 1959 (昭和34)
文部省 学校図書館運営の手びき
小学校学校行事等実施上の諸問題の研究 明治図書
- 1961 (昭和36)
文部省 小中学校における学校図書館利用の手びき 東洋館
- 1963 (昭和38)
藤川正信 第二の知識の本 新潮社
加藤秀俊 整理学 中央公論社
- 1964 (昭和39)
有田恭助 情報の集め方 光文社
- 1965 (昭和40)
平山健三 知識の整理—科学者のために— 南江堂
小平 薫 資料整理のやり方 日刊工業新聞社
東京都高等学校図書館研究会 高等学校の図書館 日本書院
- 1966 (昭和41)
高橋達郎他 科学文献 南江堂
文部省 小学校における学校図書館運営の事例と研究 東洋館
- 1968 (昭和43)
井沢 純 小学校図書館の利用指導 明治図書
河野徳吉 情報検索の知識 日本経済新聞社
小学校図書館利用指導研究会 学習と読書のガイドブック—学校図書館の利用のしかた— 第一法規
- 1969 (昭和44)
小林一作 情報選択の技術 日本経済新聞社
松本尚家 図書館の利用指導と読書指導 (小学校学級指導叢書6) 教育出版
文部省 学習指導, 読書指導と小学校図書館 東洋館
- 1969 (昭和44)
梅棹忠夫 知的生産の技術 岩波書店
- 1970 (昭和45)
川勝 久 情報整理学 ダイアモンド社
三国一朗 ハサミのとり みゆき書房
文部省 小学校における学校図書館の利用指導 大日本図書
大前正臣 情報選択の時代 日本能率協会
須永一郎 情報入門 経林書房
鶴沢昌和 人を使う人の情報管理学 日本実業出版社
身辺整理術 日本経済新聞社
- 1971 (昭和46)
遠藤 昭 情報整理の技術 実業之日本社
橋本昌幸 情報検索のABC 日本放送出版協会
かいきよみち やさしい情報整理学 社会思想社
紀田順一郎 読書の整理学 竹内書店
河野徳吉 情報整理術 日本経済新聞社
文部省 情報処理能力の育成 明治図書
- 長沢雅男 情報検索入門 森北出版
佃 実夫 ビジネスマンのための文献探索法 文和書房
文献探索学入門 思想の科学社
全国学校図書館協議会 学校図書館の利用指導の計画と方法
- 1972 (昭和47)
遠藤 昭 情報の整理学 実業之日本社
井上 如 情報の読み方 日本経済新聞社
川勝 久 情報活用学 ダイアモンド社
紀田順一郎 現代人の読書術 毎日新聞社
萩 昌朗 耳学問 日本経済新聞社
東京学芸大学附属大泉小学校 小学校における情報処理能力の育成 明治図書
壺阪竜哉 頭の引出し 産報
弥吉光長 百科事典の整理学 竹内書店
安川秋一郎 情報術入門 ビクトリー出版
- 1973 (昭和48)
古在由重他 生きること, 学ぶこと (若い世代と学問1) 新日本出版社
板坂 元 考える技術, 書く技術 講談社
佃 実夫 知識の設計 文和書房
梅棹忠夫 百科事典操縦法 平凡社
牛島悦子他 科学文献—まとも方—さがし方—利用の仕方— 南江堂
- 1974 (昭和49)
井沢 純 学級における読書と情報処理の指導 3分冊 教育出版
- 1975 (昭和50)
紀田順一郎 現代読書の技術 柏書房
増田米二 情報の活用法 産業能率短大
大久保忠利他 本の読み方上達法 あゆみ出版
- 1976 (昭和51)
岩崎隆治 情報収集力 日本経営者団体連盟
倉沢栄吉他 情報処理教育の方法—情報化社会における国語・図書館・視聴覚教育— 教育出版
島田隆司 便利でタダでトクするすぐ役立つ情報集 広済社
渡部昇一 知的生活の方法 講談社
- 1977 (昭和52)
磯山静一他 高校生の基礎学習—生きた学び方・考え方— 新日本出版社
- 1978 (昭和53)
知的生産の技術研究会 わたしの知的生産の技術 講談社
広田広二郎 知的競争時代に勝つ—情報資源の活用法— 日本経営出版社
川勝 久 知的表現の方法 産業能率短大
小林矩子 図書館における調査と研究 蒼文社
東京都高等学校図書館研究会 学び方の技術—高校生の図書館利用法— 日本書院
渡辺 茂 発想読書術 ごま書房
- 1979 (昭和54)
井上 如 身辺整理の心得 日本経済新聞社
石川弘義 情報網の作り方 ごま書房
岩崎隆治 情報活用の心得 日本経済新聞社
実業之日本社 サラリーマンの読書—本の選択法から整理術まで— 実業之日本社
塩沢 茂 情報人脈のつくり方 産業能率大学出版部
吉野俊彦 サラリーマンの知的読書法 東洋経済新聞社
渡辺昇一 統知的生活の方法 講談社
- 1980 (昭和55)
東 政雄 技術者のための資料管理入門 日本能率協会
丸山健二他 私の本の読み方・探し方 ダイアモンド社
生活システム研究会 知的文具鑑 立風書房
樺島忠夫 文章構成法 講談社

ii) 雑誌論文(年代の著者順)

- 加賀栄治 図書館教育—如何に図書及び図書館利用法を指導すべきか1—3 学校図書館9—11 (1951)
- 藤田 豊 ガイダンスとしての図書館利用教育 図書館界4 (3) (1952) P84—86
- 増村王子 図書館利用教育の一年をかえりみる カリキュラム39 (1952) P72
- 佐藤喜徳 教科学習における図書利用の指導 学校図書館71 (1956)
- 太田正章 図書館利用学習の問題点とその解決 学校図書館83 (1957)
- 室伏 武訳 図書館利用技能の育成—誰の責任か— 学校図書館101 (1959)
- 飯田静夫 図書資料利用による学習指導の問題点 学校図書館114 (1960)
- 木村一期 本校図書館の利用指導 学校図書館122 (1960)
- 松本 茂 学校図書館の利用指導と読書指導の年間計画 学校図書館126 (1961)
- 村上清造 学生に対する文献利用指導 薬学図書館6 (2) (1961)
- 徳岡暁正 学生に対する文献検索の指導 薬学図書館6 (2) (1961)
- 井沢 純 学校図書館の利用指導について 学校図書館144 (1962)
- 板橋 清 学校教育の全体計画と利用指導 学校図書館144 (1962)
- 西本国男 学校図書館の利用を高める指導 学校図書館145 (1962)
- 阪本一郎 利用指導の意義と方法—もう一度考えてみよう— 学校図書館144 (1962)
- 佐元光子 図書館の体制作りを中心に—本校における利用指導— 学校図書館144 (1962)
- 品川洋子 学校図書館利用指導の一つの試み 学校図書館145 (1962)
- 杉原 開 学校図書館の利用指導—中学校におけるカリキュラム作成とその反省— 学校図書館170 (1964)
- 筒井福子 「読書案内」利用指導 学校図書館168 (1964)
- 石川清治 学生の図書館利用学習—教授形態との関連において— 図書館界17 (2) (1965)
- 定金恒次 高等学校における利用指導 学校図書館192 (1966) P18—21
- 矢野光雄訳 大学図書館員の役割と図書館利用の指導 現代の図書館4 (1) (1966) P47—52
- 吉本瑞応 医学生に対する文献探索指導 医学図書館13 (4) (1966)
- 黒沢 浩 利用指導と読書指導 学校図書館197 (1967) P33—36
- 阪本一郎 利用指導の定着 (回顧日本の学校図書館4) 学校図書館213 (1968) P51—54
- 五味孝子 図書館利用の効果的な指導 神奈川県図書館学会誌26 (1969)
- 深川恒喜 学校図書館の利用指導のこれまでとこれから 学校図書館223 (1969) P14—18
- 本橋久雄 最低限何をなすべきか—小学校— 学校図書館223 (1969) P36—40
- 石上正夫 学校現場ではこう考える 学校図書館223 (1969) P27—30
- 石川哲三 最低限何をなすべきか—中学校— 学校図書館223 (1969) P43—47
- 井沢 純 教育課程と改訂と学校図書館の利用指導 学校図書館223 (1969) P24—26
- 小松崎寛 利用指導の時間をいかにして生みだすか 学校図書館223 (1969) P33—35
- 小川敬一 全国学校図書館協議会利用指導委員会のカリキュラムについて 学校図書館223 (1969) P19—23
- 定金恒次 小中高の一貫性をふまえた利用指導 学校図書館223 (1969) P52—54
- 菅井光男 高等学校の利用指導 学校図書館223 (1969) P48—51
- 鈴木英二 学校図書館の利用指導の問題点 学校図書館223 (1969) P9—54
- 興招 照 新学習指導要領における利用指導 学校図書館228 (1969) P36—38
- 品川洋子 学校図書館の利用指導 学校図書館242 (1970) P13—16
- 菅原春雄 情報化社会における情報処理技術論 奥州大学紀要第2号 (1970) P51—60
- 藤川正信 学校図書館利用指導の意義 学校図書館246 (1971) P9—13
- 福塚一史 特設時間を設置して 学校図書館246 (1971) P42—47
- 井田哲郎他 全職員の共通理解と協力 学校図書館246 (1971) P29—34
- 井沢 純 改訂学習指導要領と利用指導 学校図書館246 (1971) P14—17
- 金子貞子 学級指導で教科の中で 学校図書館246 (1971) P25—29
- 中沢宏行 図書館の機能面の検討から 学校図書館246 (1971) P34—38
- 小川敬一 学校図書館の利用指導 学校図書館253 (1971) P25—29
- 白神信江 高校学習入門としての試み 学校図書館246 (1971) P38—42
- 武内 慈 自主的な資料活用をめざして 学校図書館246 (1971) P22—25
- 北島武彦他 小学校における図書館利用指導の研究 図書館学会年報18, 1 (1972) P13—24
- 中学校における学校図書館利用指導の実証的研究 図書館学会年報19, 1 (1973) P35—43
- 小野田正登 高専の教育と図書館利用教育について—その関係とその必要性— 図書館学23 (1973) P15—22
- 柿沼隆志 危機の教育のなかで図書館利用指導を考える 学校図書館283 (1974) P19—22
- 笠原良郎 学び方教育としての利用指導 学校図書館283 (1974) P10—13
- 北島武彦 大学における図書館の利用指導に関する一考察 大学図書館研究3, 4号 (1974) P14—17
- 他 利用指導の現状と課題—調査報告— 学校図書館283 (1974) P25—29
- 中尾八郎 利用指導はこれでよいか—欧米視察の経験から— 学校図書館283 (1974) P30—37
- 杉山久夫 技能の利用指導を否定する 学校図書館283 (1974) P14—18
- 山田安秀 わが校の利用指導—図書館整備を中心に— 学校図書館283 (1974) P44—46
- 座間宥敬 生徒の要求にそった利用指導 学校図書館283 (1974) P39—42
- 北島武彦他 高等学校における学校図書館利用指導に関する実証的研究 共立女子大学芸学部紀要21 (1975) P1—16
- 安部叁巳 新しい大学教育のための図書館と図書館学 季刊牟礼6, 4 (1976) P4—8
- 深川恒喜他 小学校国語教科書教材を活用した図書館利用指導の研究1—3 図書館学会年報22, 3—24, 3 (1976—1978) P120—128 P113—122
- 北島武彦他 小中高等学校における学校図書館利用指導の現状と課題—総合報告— 図書館界27, 6 (1976) P189—191

- 小林矩子他 大学生を対象とする図書館利用指導案について 武蔵野女子大学紀要11 (1976) 12 (1977)
- 丸本郁子 本校の資料利用教育の一面 大阪女学院短期大学紀要6 (1976)
- 長沢雅男 図書館の利用教育 昭和52年度図書館司書実務研修会集録 (1977) P1-14
- 丸本郁子 一つの試み—一般学生にも図書館学の知識を— 図書館雑誌71, 9 (1977) P408
- 学習指導要領における情報利用教育の位置づけについて—要望書— JLA図書館学教育部会会報5号 (1977) P12
- 江連栄一 利用指導のテキスト, 手引を作成して—栃木県SLAの共同研究— 学校図書館336 (1978) P51-54
- 深川恒喜 わが国戦後教育における図書館利用指導の発達 武蔵野女子大学紀要第13号 (1978) P145-160
- 他 小学校国語教科書教材を活用した図書館利用指導の研究3 図書館学会年報24, 3 (1978) P113-122
- 井出 翁 大学における図書館の利用指導 現在の図書館16, 3 (1978) P131-139
- 工科大学図書館における利用者教育—IATUL Proceedingsから LISN14 (1978) P7-8
- 丸本郁子 図書館利用教育の試み 図書館界30, 4 (1978) P145-146
- 中沢宏行 中学校における利用指導—そのあり方と展開例— 現代の図書館16, 3 (1978) P157-162
- 小野真理子 学生に対する利用指導—オリエンテーション, 文献検索, ガイダンスを中心にして— 館灯16 (1978) P16-25
- 外山良子 大学図書館利用法講座 現代の図書館16, 3 (1978) P115-130
- 鈴木富弥夫 付, テキサス大学図書館利用教育総合計画の概要—外国人利用者と図書館— KULIC 11 (1978) P29
- 寺沢政彦 読書の生活化をはかる指導—図書館利用指導を通して— 現代の図書館16 (3) (1978) P163-166
- ウィリアムス・みつ子 米国大学図書館における利用指導活動の発展 現代の図書館16, 3 (1978) P111-114
- 八木清江 学校図書館の利用—高等学校の場合— 現代の図書館16, 3 (1978) P149-156
- 山下鍊三郎他 読書活動とその指導に関する一考察 美作女子大学, 美作短期大学研究紀要23 (1978) P9-27
- 阿部清英 どうしたら利用指導を浸透させることができるか (小学校) 学校図書館339 (1979)
- 宍道 勉 図書館の利用者教育—思想と展望— 医学図書館26 (4) (1979) P126-133
- 朝倉隆太郎 情報処理能力の育成 教育と情報251 (1979) P2-7
- 芦谷 清 利用指導とテキストの変せん—昭和20, 30年代を中心に— 学校図書館348 (1979) P46-48
- 深川恒喜 小学校における情報処理教育の一研究—学級指導における図書館利用指導の授業研究を通して— 武蔵野女子大学紀要14号 (1979) P113-129
- 後藤満彦 利用指導定着の道はけわしい 学校図書館339 (1979)
- 荻原英樹 マスコミ読み取りの段階を中心に—情報処理能力を高める社会科指導—教育と情報251 (1979) P23-28
- 浜田敏郎 学生のための図書館利用教育のあり方と司書の役割 昭和54年度日本私立短期大学協会司書研修会報告書 昭和54 P7-16
- 早津秀雄 情報処理能力の育成—高校の国語科学習における場合— 図書館学会年報25, 2 (1979) P61-70
- 井出 翁 情報流通のコミュニケーション過程に基づく理論的展開—図書館サービスと利用者教育— 専門図書館 /6 (1979) P3-7
- 小林矩子 大学生に対する図書館利用指導—最近の米国の動向についての—考察— 武蔵野女子大学紀要14 (1979) P51-63
- 長沢雅男 文献利用指導における問題点 医学図書館26 (4) (1979) P119-125
- 中村 宏 高校用テキストの特徴と問題点 学校図書館348 (1979)
- 成山雅康 大学図書館における利用指導 ライブラリアンシップ9 (1979)
- 渋川雅俊 大学図書館利用者教育研究序説—テキサス大学図書館利用者教育総合計画を中心として— Library and Information Science16 (1979) P235-251
- 高橋一男 幅広い指導で現状打開を 学校図書館348 (1979)
- 武田 忠 教える授業から学ぶ授業へ—図書館資料の活用とのかかりにおいて— 学校図書館341 (1979)
- 八木恵子 戦後義務教育における図書館利用指導の問題点 ライブラリアンシップ10 (1979)
- 山田明彦 利用指導の実像を求めて (中学校) 学校図書館339 (1979)
- 山崎哲男 小中学校用テキストの特徴と問題点 学校図書館348 (1979)
- 渡辺信一 学生に対する「文献探索法」指導の徹底を びぶりおてか25 (1979)
- 安藤重夫 国語科教科書における利用指導事項とあつかい方 学校図書館351 (1980)
- 井上 如 知的生産の技術と図書館 図書館雑誌55, 6
- 阪田蓉子 国際キリスト教大学における図書館利用法指導 図書館雑誌55, 6
- 小林 学 理科における情報処理能力の育成 教育と情報265 (1980) P54-55
- 小淵三夫 文献検索における二次資料の役割と利用法—学生のための利用指導を中心として— 事務研修7 (1980)
- 近藤博司 自ら考え, 自ら学ぶ力を育てる中で 教育と情報265 (1980) P46-53
- 丸本郁子 図書館利用教育をしてみると 短期大学図書館研究1 (1980) P57-62
- 大平浩哉 国語科における情報処理能力の育成 教育と情報264 (1980) P53-54